

AIカメラを用いて介護記録効率化の実現

テーマ概要

- 「介護記録システム」は、介護利用者の情報（プロフィール、介護計画、実績など）を電子的に一元管理するもので、介護現場の基幹システムとも言えるものです。
- しかしながら、人員不足の介護現場（施設や在宅）にとって介護記録システムに情報（特に介護実績）を入力することがとても負荷になっており、システムが導入されていても利用率が低く使いこなせていないのが現状です。
- 今回はAIカメラを用いて介護記録の効率化（自動入力、レコメンデーション等）サービスの実現に向けて、協業先を募集します。

提供可能なアセットとその特徴

TRIBUS

- 介護記録システムベンダーとの協業
- 弊社顧客による実証フィールド
- AI技術（LLM）、及び、画像解析技術（骨格検知）を持った弊社内の協力部門

アセットを活用した事業アイデア例

- 弊社で取り扱いのある介護記録システムと連携したAIカメラソリューション（介護記録効率化サービス）の展開
※カメラは据置型と装着型いずれかを想定（検証結果に従い決定）

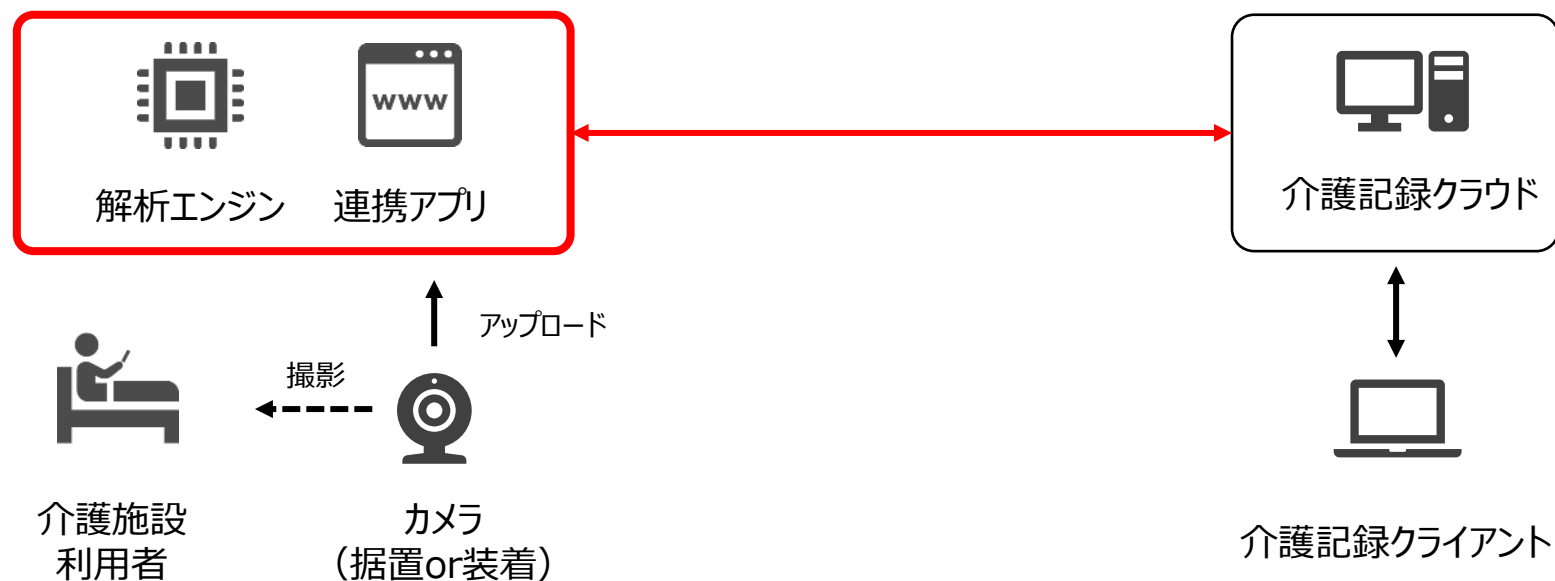
- ①カメラにより記録された人の動作や音声等を解析し、「誰が（＝介護職員）、誰に（＝利用者）対して、何をしてどうなったか（＝介助の記録）」という情報を介護記録システムに入力できるアウトプット、②介護現場の実情を理解し、全体的なUXを考慮した提案を期待しています。
- 将来的に商品化を目指すとともに、医療・予防医療・健康増進・在宅領域等の展開可能性も視野に入れたと考えています。

特に募集したい事業内容/アセットを保有する協業先

- 画像認識・解析・文字化等の技術を保有し、介護現場の課題解決に挑戦したいスタートアップ

AIカメラで撮影・解析した結果をもとに、文章・データを生成し介護記録システムに自動的に入力することにより、介護職員の負荷の低減を図りたい

■システム構成（イメージ）※赤枠が新規開発対象



<取得・記録したいデータ>

- ✓ 食事介助記録：利用者の（主食・副食・おやつ・水分など）摂取量、食の好み、残した食材、服薬、嚥下状況、様子など
- ✓ 入浴介助記録：入浴の有無、衣類の着脱、入浴時の安全状態など
- ✓ 排泄介助記録：排泄内容（量、形状）、排泄時の状況など
- ✓ 全般：介助に費やした時間

AIカメラで撮影・解析した結果をもとに、文章・データを生成し介護記録システムに自動的に入力することにより、介護職員の負荷の低減を図りたい

■解析例（食事介助の場合）



食事中的画像



メニュー画像



音声

<スタートアップに担っていただきたい内容>

- ・カメラ画像から介助の状況のデータ化
- ・プライバシーを加味した仕様の策定と実現
(入浴と排泄はプライバシーの保護が必要)

メニュー：ソーキそば（主食）
利用者名：理光花子
食事時間：45分
摂取量：2割
補足情報
・焼いた肉類を残す
・箸を7回落とす
・咳き込みあり（さすると落ち着く）